



fishive! < 羽毛田丈史音楽書庫 > since 2003.12.06



TOP

CDレポート

LIVEレポート

TV・ラジオ

雑誌・書籍

インタビュー

get you!

M.F.T.

BBS

NEWS

キャリアー

traces

サイトマップ

2001.02.21 リリース 「回路」オリジナル・サウンドトラック (PSC MTCE-1001)

<映画「回路」>

2001年2月に劇場公開された映画「回路」は、「CURE」「アカルイミライ」などの話題作で知られ、海外でも評価の高い黒沢清氏の監督・脚本作品で、2001年のカンヌ国際映画祭では国際批評家連盟賞を受賞しました。羽毛田さんは、この作品の劇伴音楽を担当。
主題歌は、Coccoの「羽根～lay down my arms～」。

ストーリーは、ある不気味なウェブサイトにまつわる、恐怖・死、そしてインターネットを介して増殖する「幽霊」と人間の物語ですが、いろいろな場面が提示されるものの、はっきりとした説明はあまりされません。衝撃的な映像が次々に映し出されるので、「これはいったいなんだろう?」「なんでなんだ?」と推測しながら進んでいく感じです。公開当時話題になったシーンはいくつかあったようですが、私が一番印象的だったのは、有坂来瞳さん扮する佐々野順子が消えてしまうシーン。現実にはありえないことなのですが、「人が死ぬというのは、まさにこういうことかもしれない」と思う、ある意味感動的な映像でした。

主演は、大学生川島亮介役に加藤晴彦さん。まわりの人がどんどん消えてしまうOLミチ役に麻生久美子さん、不気味なウェブサイトを研究する電子工学科の学生唐沢春江役に小雪さん。黒沢監督の映画ではおなじみの役所広司さんも、ちょっと不思議な役柄で出演しています。

<私の「回路」体験>

2001年当時、羽毛田さんのファンサイト「HAKETA Position」では、この映画がカンヌで国際批評家連盟賞を受賞したこともあって、掲示板でもずいぶん話題になっていました。深夜、パソコン仕事の合間の休みにそれを見た私は、さっそく「回路」公式サイトへ GO!したのですが…。草木も眠る丑三時、たまたま部屋の明かりは消えていて、暗闇にぼっかり浮かんだモニタに映し出されたもう1つのモニタ…そして得体の知れないものがその中から…。

人間て、本当にこわいときは声って出ないもんですね。

かたまってもないパソコンを、電源ブチッと落として強制終了したのは、たぶんあとにも先にもそのときだけ、だと思います。それ以来、「回路」という作品をずっと避けて通ってきました。

そんな恐怖体験を乗り越えて、私が「回路」のサントラCDを買おうと思ったのは、「魔法遣いに大切なこと」のサントラCDについているブックレットの対談を読んだから。「魔法遣いに大切なこと」の藤田敏プロデューサーが「回路」の音楽を聴き、「これがまたよくてよくて」、音楽を「羽毛田さんにお願しようということになった」そうで、ということは私の大好きな「魔法遣いに大切なこと」の楽曲の数々は「回路」がなければ生まれなかったのか…。

すぐにネット注文して入手、曲タイトルのおどろおどろしさ、ジャケットのバケモンたちはなんとか乗り越えましたが、音楽を聴き始めたとき、ものすごい「妖気」のようなものに総毛立ち、2曲目の途中ではやばやと無念のリタイア。「こんな音楽作って、自分はこわくないのか、羽毛田さんは!」と半ば逆ギレ状態、その後1年以上、棚に置かれたCDを見て見ぬふりしてきました。

でも、このままではいけない!とずっと思い続けていたし、fishive!のトップページにちゃんとボタンも用意したし、他の羽毛田さんファンの方々にも励ましていただいて、つい最近映画のDVDを購入しました。こちらは案外いっきに観ることができ、おどろおどろしい曲タイトルの意味も納得。なるほど、確かに恐怖をあおるだけじゃない、この音楽。ストリングスがふんだんに使われていて、しかも演奏は桑野聖ストリングス。これはなんとしても、サントラ聴きとおさねば!と決心したのでした。

<オリジナル・サウンドトラック>

黒沢監督は1955年生まれ、兵庫県神戸市出身。1960年生まれ、神戸育ちの羽毛田さんとはほぼ同世代、同郷の方ですが、その監督から羽毛田さんに提示されたキーワードは「ハード・ショア」だったそうです(「回路」プロモーションサイト「プロダクション・ノート」より)。ハード・ショアといえば、恐怖映画をはじめ、さまざまな劇伴音楽を手掛ける作曲家、最近では「ロード・オブ・ザ・リング」の音楽も担当しています。私は「羊たちの沈黙」と「セブン」を観ていますが、なるほど、あのいやーなアブラ汗のにじむ感じ…。

そこで羽毛田さんが挑んだのは、ストリングスの構成で、**中音域のチェロの台数を突出させる**ことだったそうです。気品のある音なのになぜか落ち着かない、私をサブイボ(=鳥肌)だらけにした例の「妖気」はこんなところから生まれていたんですね。

そしてこれまたサブイボ度満点の、**上野洋子さんの声**。黒沢監督が、人の肉声を使うことにこだわったそうです。もう1つ驚いたのが、モニタのむこうに生息する人間とも幽霊ともつかない存在が発するいやーな声。なんと「**鯨の声**」なんだそうです。そう言われてみれば…！これは効果抜群。

< 楽曲レビュー >

01 回路

マイクが拾った風の音のようなノイズと、あの世からの悲痛な叫びのような女声から始まる、重厚なストリングスのメインテーマ。

02 沁みのついた壁

冒頭、「なんか変だぞ」というできごとが起こり始めるところで、流れる曲。

この映画の中で、最初に流れる楽曲です。

不安をあおる、きむような弦の音。確かに低音楽器の音が強調されています。

壁の沁みは、全編にわたって何度も出てきます。人間と幽霊の、ちょうど中間の状態？

03 悲愁の四重奏

この劇伴では、効果音的に恐怖をあおるパターンの曲と、旋律を聴かせるパターンの曲がありますが、これは後者。弦楽四重奏に、朝川さんのハープの爪弾きのようなスケール。

美しい旋律にやっぱり鳥肌。弦の音は不思議です。神経に食い込んでいきます。

最初にこのサントラにチャレンジしたときは、この曲の手前でめげたんです。

もう少し頑張ればよかったのに…。

04 霊魂の交わり

このスロー再生したような奇妙な声の主は鯨だったのか！

最初に映画を観たときは知らなくて、得体が知れなくてとても気持ち悪かったです。

05 幽霊の現象

低音の弦に差し込まれる、高音のバイオリンの不協和音と、私を震え上がらせる女声。

不協和なのに、なぜか意識の奥では拒絶できない。異形の美しさ、です。

06 順子の運命

順子は恐怖に激しくおびえ、助けを求めながら最後は力尽きて消えていきます。

彼女の最期を哀れむように、低音の弦による03のモチーフで終わります。

「行かないで」と叫ぶミチの声が切ない、とても印象的なシーン。

07 飛び降り

飛び出したハープに引っ張られるように、パニックできむストリングス。

わずか20秒ほどの、一瞬の曲です。

このシーンの映像は、映画の中でもっとも衝撃的。

08 邂逅

中低音のストリングスを中心にした、03とはまたパターンの違う美しい旋律。

題名にもあるように、人と人とのめぐり合い、心のふれ合いに関わるシーンに流れます。

09 ひとすじの光

ここまで息を詰めて曲を聴いてきた緊張を、いっきに解いてくれる「暖」な曲。

深くてやさしいチェロの旋律の美しさに、ほんとに涙がにじみました。

ここまで頑張ってたよかった(ToT)(?)

10 あかすの間の恐怖

…と思ったら、またですか(ToT)

あの世から誘いに来たような女声とパニックフレーズに、私もパニック。

順子、いけない！あかすの間だけは…。

11 あかすの間

あかすの間は、あの世とこの世の境目。

あっちの世界を垣間見たような、低音の弦のうごめきの中から、

こっちの世界に戻れたみたい、03のモチーフをワンフレーズだけ。

12 誰もいない研究室

ミチの周辺で変なことが起こり始めたときや、荒れ果てて無人になった

春江の研究室のシーンで流れます。

電子音とヒステリックな弦の音が、モニタがならぶ研究室の無機質感と誰もいない空虚感を表現します。そのまん中でちょっと変わった音を出しているのは…？
バス・クラリネットの平原さん、どこで演奏しているのかずっと耳を澄ましていたのですが、これかな。この「ポー——」という管(くだ)っぽい音かな。聴いた方、どう思われます？

13 別の視点

キーキーと頭が鳴る！ストリングス25秒間の大混乱。演奏風景、見てみたかった。

14 逃走

映画のラストは、ホラーというよりSFタッチに。

逃げる者の不安と混乱をあおるようなバイオリン、そしてどンドン何かが迫ってくるようなチェロの伴奏に、観ている人も追い立てられます。

15 崩壊と脱出

14に、ハーブのグリッサンドと「ドンドン」という打楽器のリズムが加わります。

無人の銀座を抜けて、海にたどり着いた主人公たちのある決心を象徴するかのように、14の旋律がさらに力強い感じに。

16 そして回路は

脈打つような振動音と、01と同じような女声。

最後に残るのは、あちらの世界からあふれ出て、ネットを介して増殖しつづける幽霊だけ…なののでしょうか。

参考サイト: <http://www.emovie.ne.jp/movie/kairo/>

< MUSICIANS >

ストリングス: 桑野聖ストリングス

バス・クラリネット: 平原 智

ハーブ: 朝川朋之

ヴォイス: 上野洋子

シンセサイザー&プログラミング: 羽毛田丈史

ついに私にとっての「あかずの間」、「回路」オリジナルサウンドトラックの扉が開きました。その後、気に入った曲を何度も聴き返し、映画と照らし合わせて選曲の確認なんかもしています。もう全然平気！なーんもこわくない！

…でも、やっぱり最後には「09 ひとすじの光」を聴いてしまいます。(kingyo 040803)

[このページのトップへもどる](#)

[1つ前のページへもどる](#)